

「気象庁ガイドライン適合状況についての緊急地震速報利用者協議会共通様式」
その2 端末利用者が施す措置一覧表

会員名称(事業者名) 株式会社センチュリー

機種名 地震の見張り番@home

型番 JMB-AH

端末利用者が施す措置について、機種ごとに記載します。

(op)は、(op)の条件の下で端末を利用する場合に、影響等を十分考慮したうえで取り得る措置の一つを記述しています。

番号		A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御			C 端末の報知による人の危険回避		どのような手段で実現しているかの説明
		機械等の制御	館内業務放送		警報相当の強い揺れの予想のみ報知	その他の緊急地震速報(業)の報知	
			不特定多数向けの警報に整合した業務放送	その他			
1	気象庁が緊急地震速報(予報)を発表してから端末が報知または制御を開始するまでに要する時間	1秒以内	1秒以内	1秒以内	1秒以内	1秒以内	1秒以内となります。
2	気象庁から端末まで、配信をとぎれさせないような対策	十分とられているもの	十分とられているもの	十分とられているもの	十分とられているもの	十分とられているもの	配信サーバと端末はTCP/IPで常時接続し保全。サーバは冗長化での運用を実現しており、配信をとぎれないような対策を施しております。
3	時刻合わせ	±1秒以内	±1秒以内	±1秒以内	±1秒以内	±1秒以内	±1秒以内となります。
4	配信・許可事業者によるサポート	充実しているもの	充実しているもの	充実しているもの	充実しているもの	充実しているもの	緊急地震速報管理センターを設け、サポートを充実させております。
5	耐震固定等地震の揺れへの対策	推奨	推奨	推奨	推奨	推奨	設置面にすべり止め有り。
6	無停電化	推奨	推奨	推奨	推奨	推奨	UPSにて対応可能です。L3SW、ルータ及びハブ等のネットワーク関連機器も同時に無停電対策を施すことを推奨しております。
7	端末の冗長化	推奨	推奨	推奨	オプション	オプション	対応可能です。
8	常時接続できる回線	必須	必須	必須	必須	必須	TCP/IP常時接続。
	専用線などの信頼性の高い回線	推奨	推奨	推奨	オプション	オプション	推奨しております。
9	サーバー-端末間の物理回線の冗長化	推奨	推奨	推奨	オプション	オプション	サーバを冗長化しております。お客様がご利用される回線も冗長化を推奨しております。
10	予想した猶予時間	猶予時間がない場合でも利用	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも利用 猶予時間+10秒程度は安全確保を促す放送を継続	猶予時間がない場合でも注意喚起のアナウンスを流せます。
11	予想した震度	制御先の強度等に応じた閾値を設定	警報に整合	施設の安全性による閾値を設定	警報に整合	端末利用者の必要性に応じた閾値を設定	利用者による任意設定が可能です。
12	精度情報(凡例) 100ガル:100ガル超え緊急地震速報 1点:1観測点のデータに基づく緊急地震速報(業) 複数点:複数観測点のデータに基づく緊急地震速報(業)	複数点を利用 (op)100ガル、1点等は制御の準備に利用 (op)迅速な制御を行う際には、100ガル、1点も利用	警報に整合 100ガル、1点等は放送の準備に利用	複数点を利用 100ガル、1点等は放送の準備に利用	警報に整合	複数点を利用	複数点を利用。
13	深発地震についての緊急地震速報(業)	利用しない (op)東日本太平洋側では利用	警報に整合	利用しない (op)東日本太平洋側では、利用	警報に整合	利用しない (op)東日本太平洋側では利用	深発地震を利用する。

共通書式 その2 端末利用者が施す措置一覧表《修正部は下線を付加》

番号		A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御		C 端末の報知による人の危険回避		どのような手段で実現しているかの説明	
		機械等の制御	館内業務放送		警報相当の強い揺れの予想のみ報知		その他の緊急地震速報(業)の報知
			不特定多数向けの警報に整合した業務放送	その他			
14	放送・報知内容		NHKチャイム音(最大予測震度5弱以上の場合のみ)の後に「地震です。落ち着いて身を守ってください。」を利用 放送した後は、実際の震度を放送	NHKチャイム音(最大予測震度5弱以上の場合のみ)の後に「地震です。落ち着いて身を守ってください。」を利用 放送した後は、実際の震度を放送 (op)騒音などで放送が聞き取りにくい条件下では、認識しやすい内容で放送	NHKチャイム音(最大予測震度5弱以上の場合のみ) 具体的な予想震度、猶予時間は報知しない (op)誤差について理解していれば、具体的な予想震度、猶予時間を報知	NHKチャイム音とREIO音を利用し、地震に関する注意喚起を報知します。	
15	緊急地震速報(業)で制御、放送、報知を行った後に同一地震または別の地震について提供される緊急地震速報(業)	予想した震度によって異なる制御内容があり、制御開始後であっても制御内容の変更が許される制御対象の場合で、かつ、予想した震度が大きくなる場合には制御内容を変更。予想した震度が小さくなる場合の変更には十分な留意が必要。震度の違いによって制御の内容を変えていない場合や制御開始後は制御内容の変更が許されない制御対象の場合では用いない	放送内容は変更しない	予想した震度によって放送を変えており、放送対象者が放送の変更に対応が可能な場合で、かつ、放送後の予想した震度が大きくなる場合には震度に応じた内容を放送。予想した震度が小さくなる場合には十分な留意が必要。震度の違いによって放送の内容を変えていない場合や放送対象者が放送の変更に対応できない場合は用いない	放送内容は変更しない	予想した震度または猶予時間を報知している場合は、予想した震度が大きくなる場合または猶予時間が短くなる場合に報知内容を変更	予測震度が1段階以上上がった場合、もしくは、猶予秒数が20秒以上あり猶予秒数が10秒以上短くなる演算結果はアナウンス内容を更新します。別の地震を受けた場合も同様です。
16	キャンセル報	制御やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	放送やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	放送やその準備に利用された緊急地震速報に対して提供された場合は解除や解除の判断に利用	報知した緊急地震速報に対して提供された場合は、報知	報知した緊急地震速報に対して提供された場合は、報知	対応可能です。
17	試験	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や制御をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や放送をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や放送をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や報知をしない設定とすること	テスト報を受けて行う試験を実施 ただし、普段は、テスト報により動作や報知をしない設定とすること	サーバからテスト電文を配信して試験を行えます。普段はサーバ側の制御でテスト報による動作をしないような設定が可能です。
18	訓練	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や制御をしない設定とすること(Bに限る)	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や放送をしない設定とすること	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や放送をしない設定とすること	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や制御をしない設定とすること	端末が持つ訓練機能または訓練報を端末が受けて行う訓練を実施 ただし、普段は、訓練報により動作や制御をしない設定とすること	対応可能です。誤動作防止のため、タッチパネル操作で所定の動作を行わないと訓練が実施されないようにしています。
19	配信・許可事業者への連絡	推奨	推奨	推奨	推奨	推奨	端末本体にサポート先の連絡先をシール等で貼り、利用者が連絡を取りやすい環境を販売店にも推奨しております。